秋田県男女共同参画情報誌【ラ ヴィータ】

La Vita

ラ ヴィータ：イタリア語で“生命・人生・生活”

vol.76
2011.2.28

特集
地域で育む

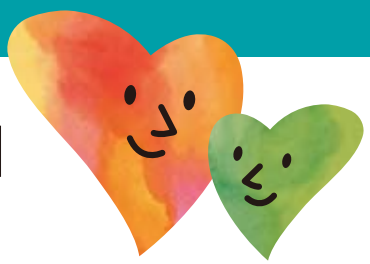
ラ ヴィータな人々
～育休をとった男たち～

いきいきクローズアップ
「ほろっとキッズ」

男女イキイキ職場訪問
「株式会社フレックス」

知ってるつもり!?
イマドキの男女共同参画
「モラル・ハラスメント」

いんふぉめーしょん
能代市が男女共同参画宣言都市になりました！！
～能代市男女共同参画宣言都市記念事業の開催～



「地域で育む」

仕事でも、家庭でもバランスのとれた生活を送りたい―そのためには家族や周囲の理解が必要不可欠。ここで頼りにしたいのが「地域の人々」の協力です。特集では、県内の各地域で子育てや生活の支援に取り組む3つのグループを紹介します。

特集 1

地域と世界を結ぶ、小さな教室

のしろ日本語学習会（能代市）　代表／北川　裕子さんに聞く

平成3年に発足。地域に在住する海外出身者を対象に、日本語の学習支援と生活支援を行うボランティア団体です。生徒の大半は、結婚を機に来日した中国や東南アジア出身の女性とその子どもたち。平成22年秋には内閣府より「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」が授与されました。

生活者としての自立支援を

今から20年前、中国残留帰国家族の通訳と日本語指導を担当したのが全てのきっかけです。外国人と日本人とでは、言葉はもちろん、これまで触れてきた文化や習慣が違います。このことでトラブルが生じる場面に何度も遭遇し、コミュニケーションの難しさを痛感しました。そこで、あらためて日本語教授法を学び、4年後に立ち上げたのが地域の外国人を支援する「のしろ日本語学習会」です。教室は週2回。中国帰国者や外国人配偶者とその子どもたちを対象とする夜のクラスと、乳幼児を持つ母親のための昼のクラスで構成されています。

教室では「話す」だけではなく、「読む」「書く」力もしっかりとつけ、最終的には日本語能力検定試験の合格を目指します。「お嫁さんにそんな難しいことを強いる必要は無い」と言われた時期もありました。しかし、読み書きが出来ないと情報が何一つ入ってこないのが現状です。彼らにとって必要なのは、日本語を学ぶと同時に「自立した生活」を送ること。さらに、子どもたちにはこの教室が「大人になるためのステップ」となる場所であって欲しい。日本文化のほか挨拶や謝ることの大切さなども身につけ、たとえ教室を離れていても「誰かに助けてもらえる力」を育てることが私の仕事だと感じています。

日本語教室は「小さな社会」

今まで活動を継続できたのは、家族や人々の支えがあったからこそ。この教室では、現在約20名のボランティアが在籍しています。教師である夫も、その一人として子どもたちの勉強をみてくれます。みんな年齢も環境もさまざま。日本語指導者だけではなく、保育、広報や学習指導ができる人などそれぞれの得意分野を生かし、協力しながら教室を運営しています。

ここには男性も、女性も、お年寄りも、若い人も、赤ちゃんも集まってくる。ある意味、この教室がひとつの「小さな社会」でもあります。

子育てトークで異文化交流

日本で結婚し、子どもが産まれ、成長する。赤ちゃんを持つ母親は忙しくなり、教室へ通うのが困難になってしまう。そこで10年前から始めたのが昼の教室での育児支援です。お母さんが学習している間は、子育てサポーターが小さな子どもたちの相手をします。「母親は言葉よりも育児を優先すべき」という意見も多かったけれど、日本語がわからないまま子育てをしたらどうなるでしょうか。母親たちが戸惑ってしまうんです。子育て支援を始めてからわかったのが「国が違えば、子育ても違う」こと。中国、ロシア、フィリピンなど、いろいろな国のママが子どもを連れて日本語で「うちはこうだ」「うちは違うよ」なんて話をしていると、日本の子育てとの違いが見えてくるし、ためになる意見もたくさん出てきます。

今後の課題は、日本語を教え、生徒たちの子育て支援を続けていくことに加えて、私から子育て支援機関や地域の人々へ積極的に発信することです。外国人が日本で育児をする上で、疑問に思っている事を相談できる場所や環境をつくってあげられたら、これからの国際化社会の中でさらに良いかたちで子育ての支援ができるのではないかと考えています。

記者メモ

「のしろ日本語学習会」夜のクラスにおじゃましました！

和やかな雰囲気に包まれた日本語教室は思っていた以上にハイレベル！生徒は各自の語学力に合わせた個別学習を進め、ボランティアの皆さんがそれをサポートします。北川先生との楽しい会話の中から次々と質問がうまれ、自分で辞書をひき、黒板に文章を書く…。このようにして生きた日本語が身についていくのです。

のしろ日本語学習会

連絡先／090-3640-0459（北川代表）

特集2

“このゆびとまれ！”地域が叶える、憩いの場

このゆびとまれ！（秋田市）　明徳地区主任児童委員／田中　博子さんに聞く

原っぱのような場になれば

「このゆびとまれ！」は、平成15年6月に明徳地区に子育て支援の場がなかったこと等から立ち上げられました。毎月第一・第三火曜日に明徳児童センターで開催しています。

「このゆびとまれ！」の名前は、明徳地区に限らずだれでも参加できて楽しいひと時を共有できる、昔どこかにあった原っぱのような場になれば、という願いを込めてつけられました。

子ども未来センター、秋田市手形第一保育所の出前や、保健師さんによる保健指導、栄養士さんによる食事栄養に関する話、地域のボランティア、地区民生・児童委員の方々等、多くの皆様のお力をお借りして楽しく続けています。

帰りたくなくなる子も

「このゆびとまれ！」に来れば同じ立場の親子に会えるのでほっとする方もいるようです。

いろいろな子どもがいて、いろいろなお母さんがいて、それぞれ頑張っている。たいへんなのは自分だけでない、と思えたり…。子どもたちにとっては、お母さんと二人だけの世界からたくさんの他の子どもたちのいる所に来るのは冒険ですが、初めは不安そうにお母さんにしがみついていたのに、昼ごろには帰りたくなくなる子どももいます。

自分以外の子どもたちがいるのを見るだけでも、子どもたちにとってもいい経験になっているようです。

地域ネットワークの中で

「このゆびとまれ！」という場を設け、各方面の方々の力をお貸し頂いたことで、地域に人と人のつながり、地域福祉のネットワークが少しずつ広がっているようです。

子どもたちの笑顔や、お母さんの優しい表情が「このゆびとまれ！」で生まれるのを見る度に、楽しさ、喜びを感じています。

これからも皆さんのリフレッシュの場として何かお役に立てれば嬉しいです。いつでも好きな時に来てください。気軽に息抜きにどうぞ！お待ちしております。

昨年の12月21日、明徳児童センターにて育児サロン「このゆびとまれ！」によるクリスマス会を開催しました。

この日の会には親子合わせて40人近くが集まり楽しいひと時を過ごしました。

紙芝居や人形劇に続いて地域の民生委員の方々が、サンタクロースやトナカイに扮して登場し、この日集まった子供たち一人一人にプレゼントを手渡し、皆でクリスマスソングを歌い楽しく祝いました。

このゆびとまれ！

場　所／明徳児童センター
連絡先／018-831-8089（田中）

特集3

人との出会いが子育てを応援してくれる

ピッカブー赤ちゃん会（仙北市）　代表／畠山　ルミ子さんに聞く

不安な育児スタート

実は今年1月に代わったばかり、初心者マークの代表です。

上の子を、夫の転勤先の青森県八戸市で出産しました。頼る人がだれもいない場所で初めての育児ですから、不安で仕方ありませんでした。子どもが1歳になる前に帰郷し、今度は人づきあいができる、と思ったのですが、当時は独身の友人も多く、育児中の私には時間の制限があるので、それも思うようにはいきませんでした。

地元でおっぱいマッサージの治療院（現在は閉院）に出向いたとき、そこの先生から子育てサークルがあると聞き、参加したのがピッカブーとの出会いです。

経験を地域に還元

参加して、自分と同じように小さい子どもを持つママたちと出会い、会話がとても楽しかったです。ストレスの発散にもなり、何より親子ともに友達ができました。

下の子が幼稚園に入り、そろそろ引退かな、とも考えていたのですが、自分たち親子もこの会でたくさんの事を学び、成長させてもらったので、それを今度は地域にお返ししていきたい、これから子育てしていくママたちの気持ちが少しでも楽になるようお手伝いをしたい、そんな思いで代表を引き受けました。

子どもがいるからと、何かをあきらめる必要はないと思います。だれかの手を借りてもいいし、悩みを相談したり、自分の意見を提案することもできます。子育ての先輩も大勢いますから、みんなで改善していくこともできます。田舎ならではの連携で出会える人や経験できることがたくさんあります。それが「地域で子育てをする」ことのメリットではないでしょうか。

ピッカブーの活動

毎月の定例会では、会員が講師になって講座を開くことも。得意分野を持つ人がたくさんいるので、親子ビクス、キッズ英語、歯科衛生士さんのお話、歴史案内人のガイドで武家屋敷散策など、実にさまざまです。

毎年行っているのは、救命救急講座とクリスマス会。クリスマスにはママたちが一品ずつお料理を持ち寄り、ちょっとしたホテルのバイキング並みで人気があります。

年会費のほか、会員たちが企画・運営するフリーマーケットの収益金で会を運営。今後はおでかけなどの野外活動や持ち寄りママランチなどもやってみたいと思っています。

子育て中は外に出る機会も少なく、家に閉じこもりがちになりますが、ここに来れば同じような境遇のママたちがたくさんいますし、息抜き、リフレッシュに来てほしいです。親子の生活が豊かになって、気持ちに余裕が持てれば、子どもや家族に対しての向き合い方が違ってくると思いますし、自分のやりたい事も見つかるかもしれません。地域みんなで楽しく子育てをする機会を、これからも提案・発信していきたいです。

ピッカブー赤ちゃん会

現在会員は22名
連絡先／090-2605-5496（畠山代表）
0187-53-3558（ちば珈琲店）

※「ピッカブー」…英語で「いないいないばあ」の意味

ラヴィータな人々 シリーズ［第15回］

育休を取った男たち

松田 一平さん（34歳）
株式会社高修興業（湯沢市）に勤務
平成22年3月11日～3月26日　育児休業取得

育休は〝会社の売り〟に

職場は小さい子どもをもっている社員が多いです。社長自身も幼稚園児と小学生がいるので、男性社員ももっと積極的に子育てできるようにと考えているみたいです。取得中は上司が業務を引き継いでくれましたし、電話やメールで自宅にいてもフォローできました。

男性の育休制度は、あまりよく知られていないのではないでしょうか。福利厚生を充実させていくことが「会社の売り」となるのであれば、育休取得は強い企業をつくるための人材確保に大いに貢献しうるものだと思います。今後、取得者がでたときには、自分の体験を活かして後輩に協力していきたいと思います。

育児の大変さがわかった

長女（5歳）が生まれたとき、忙しくて育児に関われなかったからか、なつかなかったんですよ。抱き上げても泣きやまなかったりで。親として仕事だけしてお金をもってくるのがいいのかと、随分考えさせられました。ですから、次女（1歳）のときに会社の勧めで、思いっきり2人の子どもの世話ができたことは、本当にありがたかった。そのおかげで育児の大変さがよくわかりました。

早い帰宅を心掛けることも

妻の育休が終わる時期に取得しました。「妻の育児を手伝う」というより、「一緒にやる。主導してやる」ものだと考え方が変わりました。普段は仕事優先になりますが、週に1、2日は早い帰宅を心掛けるようになったし、子どもたちも走り寄ってきてくれます。

苗代澤守・総務部長からのひとこと

当社では、若い優秀な社員が入りやすく定着しやすい体制づくりの一つに、育休取得を掲げています。

工務部の松田一平と菅朋之の2人が、ダブル取得でともに第1号となりました。建設工事の受注状況によっては休暇の取得が困難になる場合があるため、育休取得のタイミングと期間についてはその都度、相談を受けることにしています。その内容については就業規則に盛り込むなど体制の整備を進めているところです。

CLOSE UP

いきいきクローズアップ

子ども変身！体験活動支援グループ「ほろっとキッズ」

県立保呂羽山少年自然の家（横手市）を主な会場に、野鳥観察やカヌーツーリングなど、小学生対象の体験活動を行っている「ほろっとキッズ（中野達生・代表）」。

県教育委員会が主催した「おやじ変身！子ども体験活動サポーター養成講座」の県南受講者を中心に、30代から60代の男女12人が集まり、平成15年に発足しました。

事務局長の桜田裕之さんは、「自然って面白いよ。不思議なこともいっぱいあるよ。外遊びで仲間を増やそうよ」と、参加を呼びかけます。「一番人気は、段ボールを使って自分たちだけの秘密基地（かくれが）を作り、泊ってみるイベント。募集するといつも定員オーバーになるほどです。5、6人のグループで作戦会議を開いて家の設計図を作るんですが、ほとんど設計図通りいかない。自由な発想を大事にし、子どもたちが楽しむ様子を見るのが嬉しい」とのこと。

また、会計の菊池覚也さんは、「地域に子どもが少ない中、ここでは全然知らない子ども同士が、すぐに仲良くなる。毎年、続けて参加する子もいます。参加者は一般公募で、市報や学校を通して募集しています」と話しています。

ほろっとキッズ　事務局／〒014-0061 大仙市大曲栄町13-13　連絡先／0187-63-3631（桜田　裕之）

男女イキイキ 職場訪問！

大館市にある「株式会社フレックス」におじゃまします。

株式会社フレックスは、大館市花岡町に事業所があり、マンション用内装ドア等を主体に製造しています。また、地域資源を活用した新商品開発にも取り組んでいます。従業員数は、女性27名、男性45名、合わせて72名、工場内は明るく清潔で、黙々と作業に取り組むみなさんの静かな熱気に溢れていました。

野村幸三郎社長は、自宅と工場が同じだったため、幼少の頃より、赤ちゃんを抱えて働く女性たちを見て育ってきたそうです。そのため、「子育てをする従業員を支援するのは当たり前のことと考えている」と話していました。ここ3年間、出産や育児を理由に退職した女性がいないことや、PTAや子どもの看病等のために休みをとる男性が多いことからも、子育てしやすい職場の雰囲気が伝わってきます。

現在の育休取得者は1名ですが、近く、2名になるとのこと。「従業員の人数が減るのは苦しいけれど、家庭がベースなのだから、皆で協力しあって頑張ってもらわなければ」と話していました。

また、事務部門だけではなく、工場部門でも女性が力を発揮して活躍していました。写真は、工場の木取り部門で班長を務めている三浦寿子さんです。班内の仕事の調整や計画をしたり、班員の先頭に立って働いたりしているそうです。無駄のない動きや正確な仕事ぶりに、思わず「かっこいい」とつぶやいてしまいました。

男性中心の職場で頑張る三浦さんと、これからも女性の能力を活かしていきたいという野村社長に、エールを送りたいと思います。

用語解説

イマドキの男女共同参画

「モラル・ハラスメント」をご存じですか？

この言葉は、「精神的な虐待」や「精神的暴力」を意味します。夫婦や家族、職場やその他の社会活動の中で、言葉や態度によって、相手を傷つけ支配し、目に見えない暴力をふるうことです。しかし、私たちは肉体的な攻撃を加えないこうした暴力に対して気が付きにくく、目をつぶりがちです。被害者の中には、精神的な病気になったり、ひどい場合には自殺に追い込まれたりするケースもあります。訴訟を起こす人々もおり、メディアでも報道され、社会的な問題になってきています。

Check

知ってるつもり!?

モラル・ハラスメント☑チェックシート

言葉の例

- □人格・能力を否定する言葉を使う
  （例「生きている価値がない」「何をやってもダメなヤツだ」）
- □コンプレックスを持っている弱点・欠点をあげつらう
  （例 名前ではなく「デブ」「ハゲ」などと呼ぶ）
- □退職を促す
  （例「イヤだったら、いつでも辞めていいぞ」）

態度の例

- □罵声をあびせる
- □執拗な注意・叱責をする
- □悪い噂を流す

これらは「モラル・ハラスメント」で見られる典型的な攻撃例の一部です。実際は、これだけの情報では、判断しきれませんが、もし継続的にこのような言動を受けているなら、あなたは、「モラル・ハラスメント」に苦しんでいるのかもしれません。

相談先／内閣府男女共同参画局 DV相談ナビ　0570-0-55210

La Vita【ラ ヴィータ】vol.76
2011年2月28日発行
あきたの女性 創刊平成元年6月20日
編集・発行／秋田県生活環境部男女共同参画課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号 TEL.018-860-1556 FAX.018-860-3895 http://www.pref.akita.lg.jp/（美の国あきたネットのトップページ）

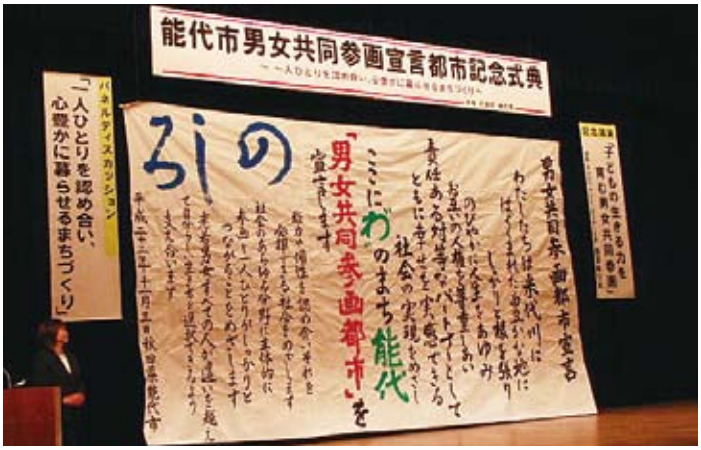
連載♪

まいちゃんの素朴な疑問

性別の固定的な役割分担は、“あたりまえ”の中に隠れています。
あなたのまわりにも、ありませんか？

いんふぉめーしょん

能代市が男女共同参画宣言都市になりました!!
～能代市男女共同参画宣言都市記念事業の開催～



一人ひとりを認め合い、心豊かにくらせるまちづくりを目指して、平成22年11月3日、能代市は男女共同参画都市を宣言しました。当日は内閣府との共催により、能代市文化会館で記念式典を開催し、宣言文の群読や記念講演などを行いました。

式典には約300人の市民が参加する中、能代北高書道部が書き上げた「男女共同参画都市宣言」の書が披露され、市民全員で群読することで会場が一体となった宣言となりました。

記念講演では、「子どもの生きる力を育む男女共同参画」と題して、エンパワメント・センター主宰の森田ゆりさんが講演し、エンパワメントとは自分の中にある力を引き出すことであり、自分も他人も尊重し、自分は自分でいいんだと思えることが大切と話しました。

また第2部では、能代市男女共同参画推進委員会会長の加賀谷七重さんがコーディネーターとなりパネルディスカッションを実施しました。講演会講師、日本語学習会代表、大学准教授そして育児支援に取り組むNPO法人の理事長らによって、それぞれの立場から意見を述べ合い、男女共同参画社会の実現のためには、コミュニケーションが大事であり、能力や個性を認め合い、老若男女全ての人が協力して支え合う気持ちが大切であると話し合いました。

［編集後記］

人と人とのつながりを大切にした地域の活動を取材して、秋田っていいなという暖かい気持ちになりました。これからも、男女共同参画社会の実現に向けて、より良いラヴィータづくりに頑張りたいと思います。（土門　純子）

この冬の大雪はすごかったですね。とりわけ県南部は、すっぽり雪に埋もれた感じでした。そんな中、隣近所の人たちで除雪を手助けし合う光景が、あちらこちらで見られました。“地域で育む助け合いの精神”は、困難を乗り越えさせてくれます。（佐藤　万里子）

「La Vita」を読んでの“ご意見・ご感想”をお寄せ下さい。お待ちしています。

秋田県生活環境部男女共同参画課　〒010-8570　秋田市山王四丁目1番1号
TEL.018-860-1556　FAX.018-860-3895　E-mail:persons@pref.akita.lg.jp